

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

# 戦禍を越え、 このまちに生きる

77年前の  
戦時中の  
暮らし

戦後71年。16歳で海軍飛行予科練習生(予科練)になり、西東京市における空襲や爆撃も目撃された田無町在住の濱野敏郎さん(88歳)に、戦中・戦後の体験を伺いました。

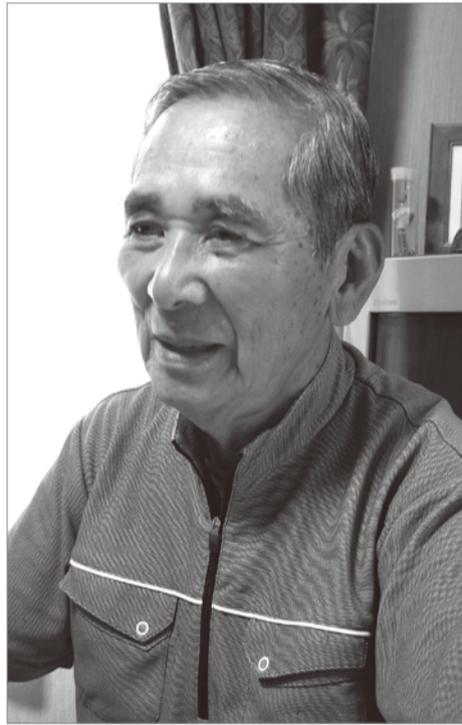
## 予科練と「回天」の訓練

戦況が厳しさを増した昭和20年。東京が未明に大空襲を受けた3月10日の朝、旧制中学の生徒だった私は予科練の合格通知を受け取りました。親戚は一人息子だからと反対しましたが、母親が「自分で決めた道だから」と説得してくれました。

3月25日から現在の練馬区光が丘にあった施設で教育を受けることになり、週3日、田無の自宅から自転車を通いました。ここで「回天」(注1)という一人乗りの潜航艇の訓練を受けました。

## 田無の空襲を体験して

田無駅付近だけで50人以上が空襲で死亡した4月12日。その日訓練施設に着いた私は、点呼後、教官に「東京の者はすぐ家に帰れ！犬死にしてはダメだ」と言われました。B29の編隊がサイパンから本土へ向かうのがレーダーで察知されたのです。私はすぐに田無に戻り、近所に空襲が迫っていることを伝え、自宅のガラスを取り外して空気が抜けるようにしてから避難しました。この空襲で近所のほとんどの家が爆風で倒壊しましたが、私の家はガラスを外したことで難を逃れました。自宅から田無駅にかけての帯には、爆



風による土の山がいくつもでき、木々には飛ばされた服が長い間引っぱかかっていました。

## 模擬原子爆弾を目撃して

7月29日の朝、妹が自宅で生まれた直後、震度3ほどの地震がきたと、ぐうぐうという体にしみこむような爆弾の音が聞こえま

した。外へ出ると、柳沢の辺りに垂直に盛り上がる異様な煙が見え、普通の爆弾ではないと直感し自転車で行きました。途中、柳沢ガード辺り(南町一丁目付近)に爆弾の破片がありました。そこにいた大人3人が、「兄ちゃん、それ触っちゃダメで、熱くてやけどするから」と言って、破片を棒で動かして水たまりに入ると、水蒸気がポワーッと上がりました。爆弾投下後すでに10分は過ぎていたのに、すごい熱を発する破片でした。

## 戦争が終わって

「回天」の訓練は8月10日までやっていた。日本が負けるはずはないとの思いが強く、8月15日の玉音放送が流れた時も、半信半疑で「そんなことあるか」と納得できませんでした。その後、それまで信じていたことが反対にひっくり返ったことで、気持ちが動転してしまい、言葉では言い表せない辛い思いを経験しました。

そんな私が立ち直ったきっかけは、心配した祖父と両親に勧められて、翌年2月から勤めたシチズンの技術部での温和な方々との出会いでした。

昭和23年に家の商売(食堂)が復活すると、シチズンを退社して、当時は珍しかった電力で動く製麺機で麺を大量生産しました。食糧難で困っている人のために、配給の茹で麺をじゃんじゃん作り、配給の券が無い人にも、余りの粉でこしらえたものをあげました。こうして仕事に精を出すうちに自信を取り戻しました。

## 「平和」のなかで

昭和20年に気持ちが沈むところまで沈んだからこそ、このまちで、もっと楽しくやっていこうと思うようになり、商売が軌道に乗ってからは、まちが活気づくように「田無の仮装行列」に取り組みました。また、幼いころに父や提灯屋さんに風絵を教わった経験を活かし、本格的に江戸風づくりを始めました。

現在は、阪神淡路大震災の翌年に開催された全国風揚げ大会での売上寄付をきっかけに、東日本大震災被災地の復興支援にかかわっています。



## 写真で見ると いまむかし

### 保谷市営プール

昭和44(1969)年1月、旧保谷市役所(現保谷庁舎)の敷地内に市営プールが完成し、同年7月10日に開場しました。大プール(縦25m、横11m、深さ1.3m)と幼児プール(縦10m、横8m、深さ0.4m)があり、スポーツセンターがオープンした平成5(1993)年まで毎年7・8月に開放されていました。



保谷市営プール・昭和44(1969)年撮影  
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



◀現在は、こもれびホールが建っています



市営プールがあったのは、ホールの南側です

撮影：水口トミオ(保谷町在住)

### (注1) 回天とは

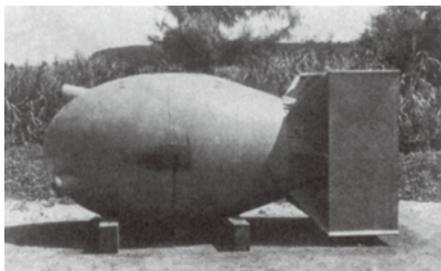
出撃したら二度と戻って来られない水中特攻兵器で、人間魚雷ともいわれています。

### (注2) 中島飛行機武蔵製作所とは

中島飛行機武蔵製作所は、現在の都立武蔵野中央公園の辺りから武蔵野市役所に至る一帯にあった、主に戦闘機のエンジンを製造する軍需工場です。

重要な軍需拠点であったため、米軍による本土攻撃の標的となりました。工場周辺地域、特に北側の旧保谷町・旧田無町(現西東京市)は、外れた爆弾により、一般市民に大きな被害が出ました。

### (注3) 模擬原子爆弾とは



米国立公文書館所蔵 工藤洋三氏提供

長崎原爆と同型・同重量で、爆薬は核物質ではなく多量の高性能爆薬が込められていました。

原爆専門秘密部隊のB29爆撃機が、本物の原爆を確実に投下・爆発させるため投下訓練として使用し、黄色に塗装された球体だったのでパンプキン(かぼちゃ)と呼ばれていました。

### 『じゃがいも畑へパンプキン

—西東京市にも落とされた模擬原子爆弾—

(2015年4月1日、「西東京に落とされた模擬原爆の記録を残す会」発行)より